第１章　調査概要

１．調査目的

本調査の目的は、家庭から排出される家庭系ごみ（可燃、その他の紙、雑がみ）、事業所などから排出される事業系ごみについて組成割合を調査し、ごみの排出状況を把握するとともに、更なるごみの減量化・資源化推進のための基礎資料とすることである。

２．調査実施内容

①　家庭系可燃ごみ

【 実 施 日 】　平成 30 年 7 月 30 日（月）
【 調 査 場 所 】　弘前地区環境整備センター（弘前市大字町田字筒井 6-2）
【 季 節 】　春・夏・秋・冬
【試料採取地域】　新里町会（豊田地区）
【集積所の形態】　ステーション方式（町会等）、ステーション方式（集合住宅）、毎戸方式
【 備 考 】　ポリバケツ、集積ボックス、防鳥ネット、三方コンクリート
【可燃収集曜日】　月曜・木曜
【 想 定 条 件 】　農村地域
【 採 取 量 】　201.4kg（集積所 5 か所分）
【気温（平均）】　28.8℃
【 収 集 時 間 】　19 分

３．調査手順

（１）試料の回収

①　家庭系可燃ごみ

調査対象の集積所から市職員がごみを回収し、指定の場所に搬入する。

②　家庭系ごみ厨芥類（生ごみ）の未使用（食品ロス）

①で調査した厨芥類（生ごみ）の未使用（食品ロス）を回収し、指定の場所に搬入する。

（２）分類及び重量の記録

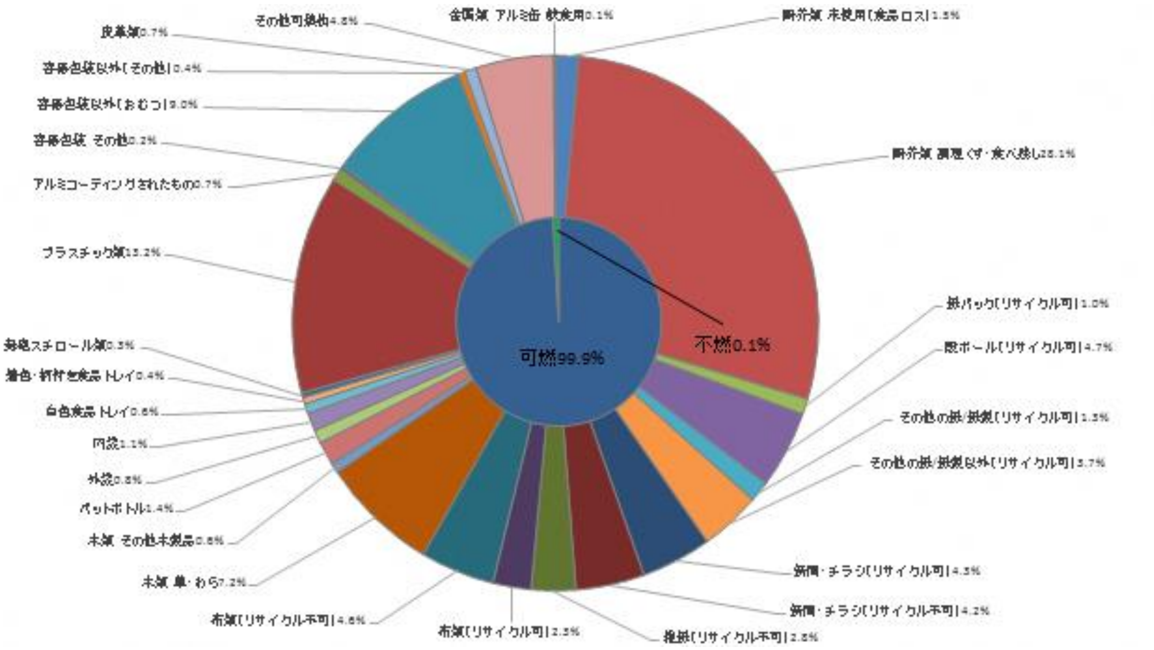
搬入された試料の分類を行い、組成区分ごとに重量を計量し、記録する。

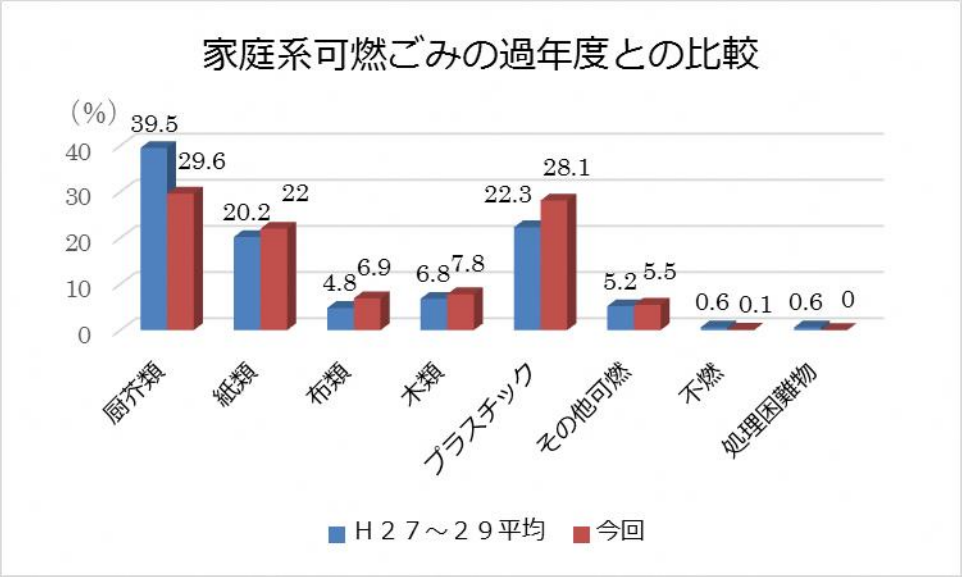
第２章　調査結果

①　家庭系可燃ごみ

今回実施した組成分析調査の調査結果を別表に示した。

重量比で 10%以上の大分類の組成項目は「厨芥類」（29.6%）、「プラスチック類」（28.1%）、「紙類」（22.0%）、の 3 種であり、全体の約 79.7%を占めていた。個別に見ると「厨芥類（生ごみ）調理くず・食べ残し」（28.1%）、「プラスチック（プラスチック製容器）」（13.2%）の割合が高かった。



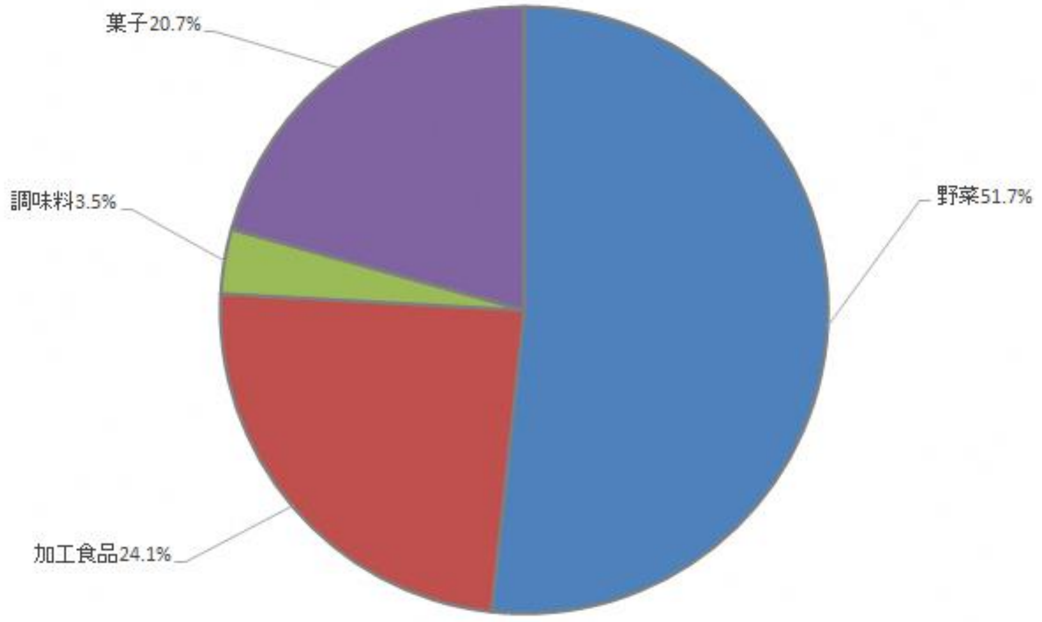


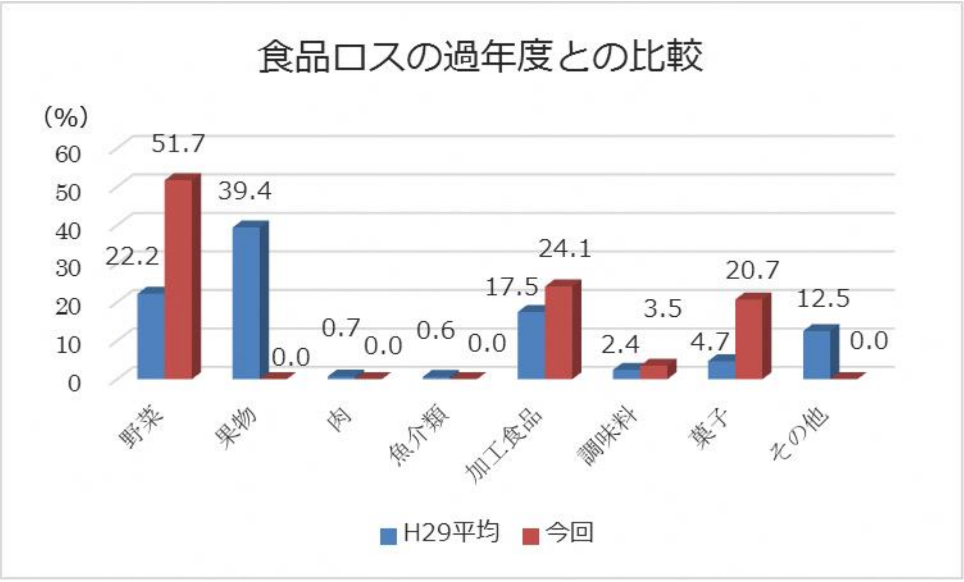
② 家庭系ごみ厨芥類（生ごみ）の未使用（食品ロス）

今回実施した組成分析調査の調査結果を別表に示した。

厨芥類（生ごみ）の未使用（食品ロス）についてさらに細分化し調査した。

割合として多かったものは野菜の 51.7%で、昨年一番割合の多かった果物の食品ロスが今回はなかった。





第３章　分別適正率

①家庭系可燃ごみ

分別適正率とは、家庭系可燃ごみに出されたごみ総量から、紙類・布類のリサイクル可のもの、ペットボトル、不燃物、処理困難物を差し引いた割合のことである。

今回の調査では分別適正率は 81.2%（平成 27～29 年度平均 79.5%）となった。

算定式
分別適正率＝総量－【紙類（リサイクル可）＋布類（リサイクル可）＋ペットボトル＋ 不燃物＋処理困難物】 ＝100％－（15.0％＋2.3%＋1.4%＋0.1%＋0.0%）＝81.2%